

寸言

HIREC株式会社
代表取締役社長
長谷川 秀夫



高信頼性技術を基盤とした「考える技術集団」を目指して

当社は、宇宙用高信頼性部品の安定供給を使命として、日本の宇宙関連企業の支援の基に1988年10月に設立されました。以来、我が国基幹ロケット（H-II、H-IIA）をはじめ、技術試験衛星、地球観測衛星、科学衛星、国際宇宙ステーション／日本実験モジュール（きぼう・JEM）等、各種宇宙機システムに対して高機能・高信頼性部品を供給して参りました。

現在は、宇宙航空研究開発機構（JAXA）殿の部品プログラムの一翼を担い、高度な宇宙機システム／機器に対応したHR5000S（高性能64Bitマイクロプロセッサ）やバーストSRAM（高速メモリ）の提供、さらにお客様のご要望に応じたASIC（Application Specific Integrated Circuit）の設計・製造・評価など、宇宙用高信頼性部品の開発・製造を担うトップ企業として、最先端の宇宙用部品の安定供給に取り組んでおります。

もう一つの事業の柱として、信頼性・品質保証業務支援を積極的に展開しております。宇宙関連企業からの中立性を活かし、宇宙空間では修理不可能な宇宙機システムの開発・製造の各段階において、ワークマンシップの確認を含めて、信頼性（壊れにくさ）・品質の確保をサポートし、その客観性・透明性を担保することで、プロジェクトの成功を支えるとともに、開発期間の短縮やコスト削減に貢献しております。

また、設立以来蓄積した技術と経験を活かし、近年地上のシステムにおいても課題となっている各種デバイスへの放射線の影響

（中性子による反転・誤動作等）や地上においても高信頼性が求められる分野に対して、宇宙機システムで培った放射線評価技術、スクリーニング技術、高信頼性・品質保証技術等の応用による事業拡大を目指しております。

一方、我が国宇宙産業における半導体部品は相次ぐメーカの撤退などもあり、人工衛星などに用いる基幹部品の多くを海外に依存せざるを得ない状況に置かれています。しかし、安全保障上の自律性確保、国際競争力強化、人工衛星の小型・軽量化等のための基幹部品の継続的な国内開発は重要と考えております。

こうした背景のもと、平成27年1月9日に決定された宇宙基本計画に基づき、経済産業省殿が推進されている「部品・コンポーネントに関する技術戦略策定」に参画させて頂き、宇宙機システムを支える部品の視点から各種提言等を通じて、微力ながら宇宙産業基盤強化に向けた取組みにも関与しております。

当社は、宇宙機システムにおける部品技術および信頼性・品質保証技術を基盤とした「考える技術集団」として、日本の宇宙産業の基礎を支え、その安全・信頼性・品質向上に努力することを通じて、宇宙がもたらす豊かで安全・安心な社会の構築に寄与する所存です。

このため宇宙機システムとしてのニーズを具体化し、ニーズに合った製品・サービスを提供することで、我が国宇宙産業の発展に貢献したいと考えております。今後とも関係各位のご指導を賜りたく、宜しくお願い申し上げます。